



『沈黙』

遠藤周作

遠藤周作は東京に生まれ、昭和三十年、『白い人』で第三十三回芥川賞を受賞した。

平成四十一年には、長崎を舞台とする『沈黙』で第二回谷崎潤一郎賞を受賞した。

『沈黙』は、徳川幕府による過酷なキリシタン弾圧が行われていた江戸時代初期に日本に潜入したポルトガル人の司祭の一人、セバスチャン・ロドリゴが上陸した外海町出津を舞台とする作品である。

水平線を望む「沈黙の碑」は、昭和六十二年に建立され、次の一節が刻まれている。

人間がこんなに哀しいのに

主よ、海があまりに碧いのです

平成十二年、順子夫人から寄贈された遺品、生原稿、蔵書等をもとに遠藤周作文学館が完成した。遠藤がこよなく愛した外海の夕陽に映える文学館は、県内外から多くの遠藤ファンを迎えている。